
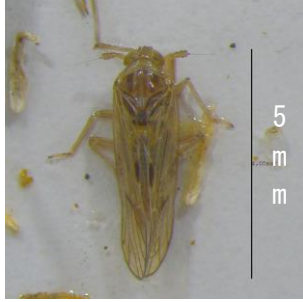




病害虫発生予察情報予報第 4 号（8 月の予報）





佐賀県農業技術防除センター


6 月 1 日～8 月 31 日の 3 か月間は農薬危害防止運動期間です。
農薬の安全かつ適正な使用及び保管管理を徹底しましょう。

I. 予報の概要および各作物の特記事項

作物名	病害虫名 ^{注1)}	8月の予想発生量 ^{注2)} 平年比	予報対象の病害虫 (抜粋)
水稲 (早期)	紋枯病	並	斑点米カメムシ類 
	斑点米カメムシ類	やや多	
水稲 (山間早植え)	穂いもち	並	ケハカメムシ ホハカメムシ
	紋枯病	やや多	
	トビイロウンカ	やや多	
	コブノメイガ	並	
	斑点米カメムシ類	やや多	
水稲 (普通期)	穂いもち	並	 トビイロウンカ
	紋枯病	やや多	
	白葉枯病	並	
	もみ枯細菌病	並	
	トビイロウンカ	やや多	
	コブノメイガ	やや多	
	フタオビコヤガ	並	
	斑点米カメムシ類	やや多	
水稲全般	1. 紋枯病	近年、多発傾向にあるため、各圃場における発生状況を確認し、発生を認めた圃場では病斑が上位の葉鞘に進展する時期（液剤、粉剤の場合は出穂 20～10 日前を目安とする）に防除を徹底する。	
	1. トビイロウンカ	本種の発生状況は、田植え時期、水稲の品種、地域、これまでの防除の違い等によって異なるので、発生予測図（共通-図 1）を参考にして、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、幼虫ふ化揃い期の防除を実施する。	

作物名	病虫害名 ^{注1)}	8月の予想発生量 ^{注2)} 平年比	予報対象の病虫害 (抜粋)
イチゴ (育苗圃)	うどんこ病	やや少	 炭疽病による葉の汚斑型病斑
	苗立枯症 (炭疽病・疫病)	やや多	
	ハダニ類	多	
	アブラムシ類	多	
<p>1. 苗立枯症 (炭疽病、疫病、萎黄病) 炭疽病による葉の汚斑型病斑及び苗の立枯れが複数圃場でみられている。発病株を認めただ場合は、早急に圃場外に持ち出し適切に処分する。また、ランナー切り離し後の親株は、できるだけ早期に処分する。 特に炭疽病については、伝染抑制効果が高いビニル雨よけ下で育苗を行い、定期的な薬剤防除を実施する。また、本病の感染に好適な高湿度条件が長時間続かないように、苗ポットの間隔を空けて通風を図るとともに、灌水は天候、時間及びポットの乾き具合を考慮して行う。防除対策の詳細は、令和6年7月22日付け病虫害対策資料第13号を参照する。</p> <p>2. ハダニ類 本圃におけるハダニの発生源は、苗による持ち込みが多いため、育苗期の防除を徹底する。薬剤防除には、薬剤抵抗性の発達の可能性が低いとされる気門封鎖系薬剤を活用する。ただし、これらの薬剤は卵に対して効果が無いものが多いので、5～7日間隔で2回散布を1セットとし、発生状況に応じて数セット散布する。薬剤防除の際は、下葉や葉裏まで薬液が付着するように十分量を丁寧に散布する。防除対策の詳細は、令和6年5月30日付病虫害対策資料第7号を参照する。</p>			
アスパラガス	茎枯病	並	 ネギアザミウマ
	褐斑病	並	
	斑点病	並	
	アザミウマ類	並	
	ハダニ類	やや多	
<p>1. ハダニ類 多発生すると防除が困難となるので、発生初期の防除を徹底する。虫見板等への払落としで、寄生が認められれば直ちに薬剤防除を行う。</p> <p>2. 茎枯病、褐斑病、斑点病 各病害とも3週間間隔を目安とし、発生前から薬剤防除を実施する（前年多発生圃場及び既発生圃場、降雨が続く場合は間隔を短縮）。通気を図るため、降雨時以外は原則として施設開口部を開放する。茎枯病については、降雨時にサイドビニルを降ろし雨の降込みを防ぐとともに、発病茎は見つけ次第除去し、適切に処分する。</p> <p>3. 薬剤散布時の注意点 茎葉が繁茂すると薬液が内部まで到達しにくいので、株外側からの散布に加え、ノズルを株内に差し込んで散布したり、株の両側から散布したりするなど、十分な薬量で丁寧に散布する。</p>			

作物名	病虫害名 ^{注1)}	8月の予想発生量 ^{注2)} 平年比	予報対象の病虫害 (抜粋)
果樹全般	果樹カメムシ類	多	 チャバネアオカメムシ
	<p>1. 果樹カメムシ類 果樹カメムシ類は、樹高の高い樹木に一旦飛来し、その後果樹園に飛来する傾向があるので、防風樹等は必要以上に高くないよう剪定をする。飛来状況は地域や園地によって異なるため、園内外をこまめに見回り、早期発見、早期防除に努める。 合成ピレスロイド剤等を散布するとハダニ類やカイガラムシ類の異常増殖(リサージェンス)を生じる場合があるので、これら害虫の防除対策も実施する。</p> <p>2. 夜蛾類 一部の園において被害が発生している。令和6年6月13日付け病虫害対策資料第8号を参考に、物理的防除、耕種的防除を徹底する。</p>		
カンキツ	かいよう病	多	 かいよう病
	黒点病	やや多	
	ミカンハダニ	多	
	チャノキイロアザミウマ	多	
	<p>1. ミカンサビダニ 新たに被害が確認された場合は早急に防除を行うとともに、例年多発する園では、8月中下旬頃の防除を徹底する。</p> <p>2. かいよう病 台風の襲来等強風雨が予想される場合、本病が発生しやすい園および幼木園では、襲来7日前～前日までに必ず薬剤防除を行う。</p> <p>3. アザミウマ類 チャノキイロアザミウマによる後期被害を防ぐために、8月中旬～9月上旬頃の防除を徹底する。また、ハナアザミウマ類による着色期の果実被害を防止するため、発生源となる園内及び園周囲の雑草は、着色期前までに除草を行う。</p>		
ナシ	ナシヒメシンクイ	やや多	 ハダニ類
	ハダニ類	多	
<p>1. ハダニ類 園内をよく観察し、低密度時(寄生葉率10%未満または1葉当たりの雌成虫数が0.5～1頭未満)からの防除を徹底する。特に、園周縁部などスピードプレイヤーによる散布で薬液がかかりにくい部分では、手散布を実施するなどして防除の徹底を図る。 殺ダニ剤に対する抵抗性の発達を避けるため、同系統の薬剤は年1回の使用とする。また、前年に使用した殺ダニ剤は使用しない(令和6年5月24日付け病虫害対策資料第6号参照)。</p>			
ブドウ	べと病	多	 べと病
	褐斑病	並	
	<p>1. べと病 本病は降雨によって感染が進展するので、降雨前の予防散布を徹底する。また、防除効果を高めるため、棚面の上からも散布する。 ストロビルリン系殺菌剤(アミスターフロアブル、ストロビードライフロアブル等)に対し耐性菌が発生しているため、本系統薬剤は本病の防除には使用しない。 本病の罹病葉・果実は伝染源となるので、必ず除去し、園外に持ち出し適切に処分する。</p>		

作物名	病虫害名 ^{注1)}	8月の予想発生量 ^{注2)} 平年比	予報対象の病虫害 (抜粋)
茶	炭疽病	多	 炭疽病
	輪斑病	並	
	カンザワハダニ	やや多	
	クワシロカイガラムシ	並	
	チャノキイロアザミウマ	やや少	
	チャノミドリヒメヨコバイ	多	
	チャノコカクモンハマキ	やや多	
	チャノホソガ	並	
1. 炭疽病 本病は雨滴により新芽に感染するため、開葉初期の降雨前の予防剤による防除を基本とし、防除が遅れ降雨後の散布となった場合は浸透移行性のある薬剤を散布する。多発生が予測される場合には、予防剤（開葉期）＋浸透移行性のある剤（2～3葉期）による体系防除を実施する（詳細は令和6年5月21日付け病虫害対策資料第4号参照）。			
2. チャノミドリヒメヨコバイ 秋期の発生を抑えるため、秋芽萌芽期～開葉初期に防除を実施する。多発生園では、さらに一週間後を目安に、追加防除を行う。なお、同一系統の薬剤は連用しない。			
3. チャノコカクモンハマキ 8月上旬～中旬頃（発蛾盛期から7～10日後）が防除適期である。幼虫の齢数が進むにつれ薬剤の効果が低下するので、防除が遅れないようにする。薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。			

注1) 病虫害名に網掛けをしたものについては、予報の根拠とした内容を記載しています。

注2) 予想発生量については、平年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病虫害について「平年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注3) 防除対策については「佐賀県病虫害総合防除計画」も参照してください。

病虫害総合防除計画掲載アドレス

<https://www.pref.saga.lg.jp/kiji003101844/index.html>

QRコード→



II. 予報の内容・根拠等について

予報内容（来月の予想発生量）

- 平年（過去 10 年間）と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

予報内容の根拠

- 農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。
- 発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、(－)：少発生、(－～±)：やや少発生、(±)：並発生、(±～＋)：やや多発生、(＋)：多発生として示しています。

防除上注意すべき事項

- 各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「県防除のてびき」をご参照ください（4 ページの注釈にリンクが有ります）。

写真

- 1～4 ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。
6 ページ目以降：定期調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

7月の気象条件

- 病害虫の発生に関与する 8 月の気象条件については、福岡管区気象台発表の 1 ヶ月予報（令和 6 年 7 月 18 日）を基に、「気温：平年より高い」、「降水量：平年並」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%)及び病害虫の発生に関与する気象条件

要素	1 ヶ月予報における 7 月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に関与する気象条件（平年比）
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	10	10 (28.2℃)	80	高い
降水量	30	40 (252.4 mm)	30	並

Ⅲ. 8月の予報

水稻（早期、上場地域）

定期調査：12 圃場
調査日：7月18日

[【概要に戻る】](#)



定期調査圃場の様子（早期水稻）

1. 紋枯病

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率 0%（平年1.5%、前年1.7%）
平年比：少（-）

(2) 8月の気象予報

気温は高く、降水量は並で、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

各圃場での発生状況を確認し、病斑が上位3葉の葉鞘に達している場合は直ちに薬剤防除を行う。

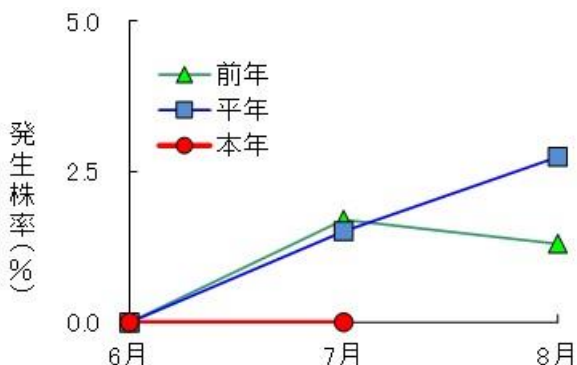


図1 早期水稻での紋枯病の発生推移

2. 斑点米カメムシ類

水稻（早植え）の斑点米カメムシ類の項参照。

水稻（山間早植え）

定期調査：12 圃場
調査日：7月17日

1. 穂いもち

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）【葉いもち】

発生株率 0%（平年3.9%、前年0%）
平年比：やや少（-～±）

(2) 8月の気象予報

気温は高く、降水量は並で、並発生の条件（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 進展型病斑がみられる圃場では早急に薬剤防除を行う。

(2) 葉いもちの発生がみられる圃場では、穂ばらみ期の防除を実施する。発生が多いと予想される場合には穂揃い期にも薬剤防除を行う。



定期調査圃場の様子（山間早植え水稻）

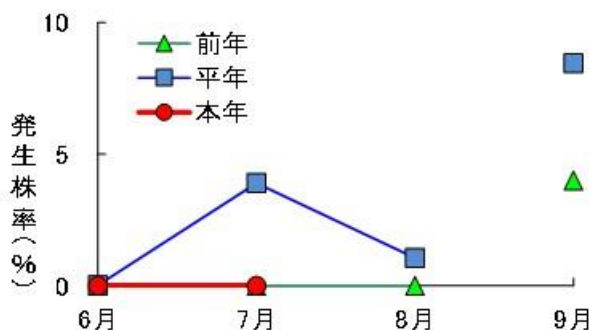


図1 山間早植え水稻でのいもち病の発生推移

2. 紋枯病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

発生株率 0% (平年0.1%、前年0%)

平年比：並 (±)

(2) 8月の気象予報

気温は高く、降水量は並で、多発生の条件 (＋)

3) 防除上注意すべき事項

本病の発生が見られる圃場では、病斑が上位の葉鞘に進展する前に防除を行う。

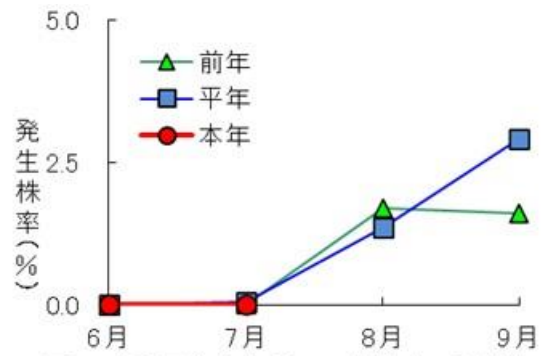


図1 山間早植え水稻での紋枯病の発生推

3. トビイロウンカ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) これまでの飛来状況

6月23日～24日頃、7月1日～2日頃、7月10～11日頃に飛来を確認しており、嬉野市のライトトラップでの6月1日から7月15日までの総捕獲数は(共通-表1)、直近10年間 (2015～2024年) の中で2番目に多い。 (±～＋)

(2) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

発生株率 0% (平年0.01%、前年0%)

平年比：並 (±)

(3) 8月の気象予報

気温は高く、多発生の条件 (＋)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

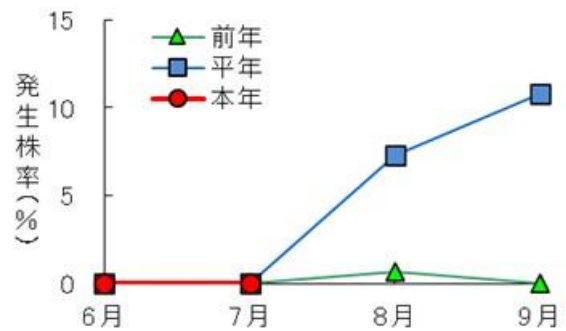


図1 山間早植え水稻でのトビイロウンカの発生

4. コブノメイガ

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) これまでの飛来状況

6月13日以降、県内のライトトラップで断続的に誘殺されている (共通-表1)。 (±)

(2) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

発生株率 1.0% (平年1.7%、前年 0%)

平年比：並 (±)

(3) 8月の気象予報

気温は高く、多発生の条件 (＋)

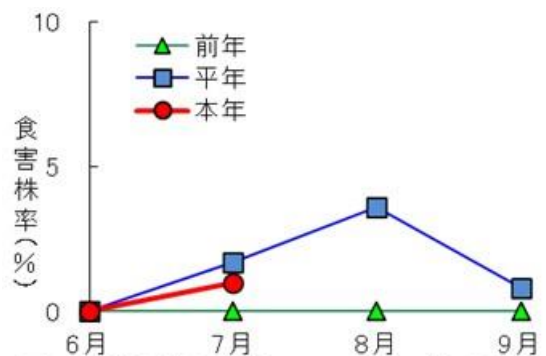


図1 山間早植え水稻でのコブノメイガの発生

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 止葉を含む上位3葉への被害を防止するため、発生予測図（共通一図2）を参考にして、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで幼虫ふ化揃い期（発蛾最盛期の7日後）に防除を実施する。

5. 斑点米カメムシ類(クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、シラホシカメムシ類、アカスジカスミカメ、ミナミアオカメムシ等)

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

- (1) イネ科雑草での捕虫網によるすくい取り調査（7月16～18日）

発生量は、平年並～多い（表1）。〈±～+〉

- (2) 8月の気象予報

気温は高く、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 水稻の出穂10日前までに畦畔を含めて除草を行う。

- (2) 乳熟期（穂揃い期の約10日後）を中心に薬剤防除を行う。多発生の場合は穂揃い期とその7～10日後に薬剤防除を行う。

表1 斑点米の原因となるカメムシ類のイネ科植物におけるすくい取り調査結果

20回すくい取り虫数(2024年7月16日～18日)

調査地点	場所	草種	クモヘリカメムシ		ホソハリカメムシ		シラホシカメムシ類		アカスジカスミカメ		ミナミアオカメムシ
			成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫
佐賀市蓮池町	畦畔	エノコログサ類	0	0	1	0	0	0	3	8	0
佐賀市諸富町	河川敷	エノコログサ類	2	3	4	5	4	0	78	29	0
小城市三日月町	河川敷	オヒシバ	0	0	5	2	1	1	8	1	0
唐津市原	空地	エノコログサ類	2	1	2	5	1	1	10	2	0
唐津市鎮西町1	畦畔	オヒシバ	0	0	3	0	0	0	41	16	0
唐津市鎮西町2	道端	エノコログサ類	0	0	0	0	0	0	6	10	0
神埼市神埼町	道端	エノコログサ類	0	0	0	0	0	0	6	5	0
鳥栖市三島町	道端	エノコログサ類	0	0	1	0	0	0	0	0	0
伊万里市松浦町	空地	エノコログサ類	8	72	0	0	1	0	2	0	0
武雄市朝日町	空地	エノコログサ類	4	0	0	0	0	0	0	0	0
鹿島市	河川敷	ヒエ類	2	3	5	0	0	0	12	0	0
嬉野市嬉野町1	空地	エノコログサ類	1	0	0	0	0	0	2	0	0
嬉野市嬉野町2	空地	ヒエ類	0	0	8	0	0	0	0	0	0
みやき町1	畦畔	エノコログサ類	0	2	1	0	0	0	64	30	0
みやき町2	河川敷	エノコログサ類	1	1	0	0	0	0	2	2	0
白石町1	畦畔	エノコログサ類	37	21	12	2	0	0	0	0	0
白石町2	河川敷	エノコログサ類	5	1	2	0	0	0	2	0	0
白石町3	河川敷	エノコログサ類	42	20	21	3	0	0	3	2	0
本年（平均）			5.8	6.9	3.6	0.9	0.4	0.1	13.3	5.8	0.0
平年（過去10年の平均）			2.5	2.6	1.3	0.4	0.2	0.6	14.1	8.6	0.03
前年（平均）			2.8	1.6	1.2	0.2	0.1	0.0	7.3	13.0	0.0

水稻（普通期）

定期調査：48 圃場
調査日：7月16日～18日



定期調査圃場の様子（普通期水稻）

1. 穂いもち

1) 予報の内容

発生量：**平年並**

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）【葉いもち】

発生株率 0%（平年2.7%、前年 2.2%）

平年比：やや少く（～±）

(2) 感染好適条件発生状況【県内、隣接県 計10地点】

BLASTAM（7月6日～18日）では、準感染好適条件または感染好適条件が、7月13～14日、16～17日に出現した（表1、図2）。（±～+）

(3) 8月の気象予報

気温は高く、降水量は並で、並発生の条件（±）

3) 防除上注意すべき事項

水稻（山間早植え）の穂いもちの項参照。

表1 BLASTAMによる葉いもち感染好適条件の出現状況(令和6年)

月	日	佐賀					福岡			長崎	
		唐津	伊万里	佐賀	嬉野	白石	前原	太宰府	久留米	松浦	佐世保
7月	6日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	7日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	8日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	9日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	10日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	11日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	12日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	13日	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-
	14日	-	2	-	2	-	-	2	2	-	-
	15日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	16日	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
	17日	3	3	-	●	3	-	-	3	-	-
	18日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

1：準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20℃未満)

2：準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が25℃以上)

3：準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤期間中の平均気温が15～25℃の範囲外)

4：準好適条件(湿潤時間が湿潤期間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い)

●：好適条件(湿潤時間が長く気温も適当で、葉いもちの感染好適条件が出現した)

-：好適条件の出現なし

?: 判定不能

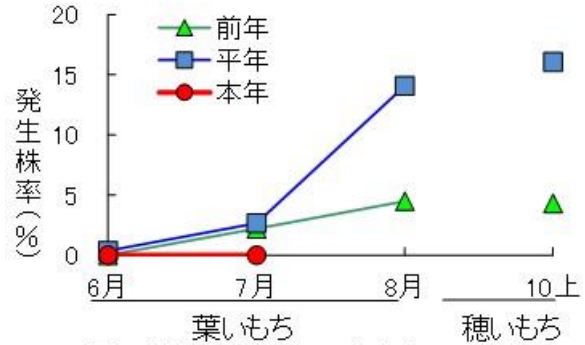


図1 普通期水稻でのいもち病の発生推移

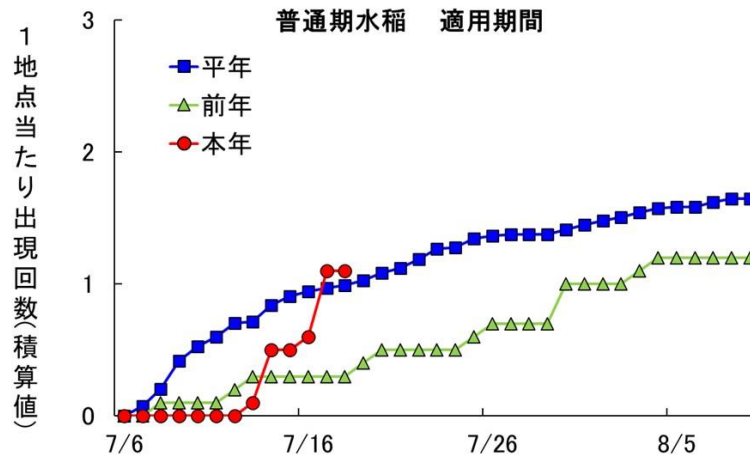


図2 BLASTAMIによる準感染・感染好適条件の出現回数
(6月16日移植の場合: 適用期間7月6日~8月9日)

2. 紋枯病

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1参照)

発生株率 0% (平年0.01%、前年0%)

平年比: 並 (±)

(2) 8月の気象予報

気温は高く、降水量は並で、多発生の条件 (++)

3) 防除上注意すべき事項

特記事項を参照。

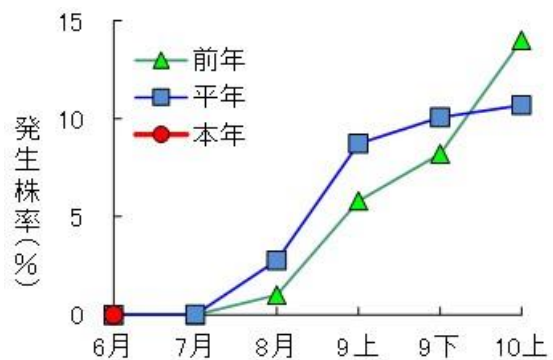


図1 普通期水稲での紋枯病の発生推

3. 白葉枯病

1) 予報の内容

発生量: 平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査

発生株率 0% (平年0%、前年0%)

平年比: 並 (±)

(2) 8月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 台風等の強風雨後に発生しやすい。発生した場合には拡大を防ぐため葉が乾くまで圃場に入らない。

4. もみ枯細菌病

1) 予報の内容

発生量: 平年並

2) 予報の根拠

(1) 8月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

気象予報に留意し、開花期間中に降雨が予想される場合は、出穂前後の防除を行う。特に、苗床で発生した圃場では、確実に実施する。

5. トビイロウンカ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) これまでの飛来状況

6月23日～24日頃、7月1日～2日頃、7月10～11日頃に飛来を確認しており、嬉野市のライトトラップでの6月1日から7月15日までの総捕獲数は(共通-表1)、直近10年間(2015～2024年)の中で2番目に多い。〈±～+〉

(2) 発生の現況

① 定期調査(図1参照)

発生株率 0% (平年0.01%、前年0%)

平年比：並〈±〉

(3) 8月の気象予報

気温は高く、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

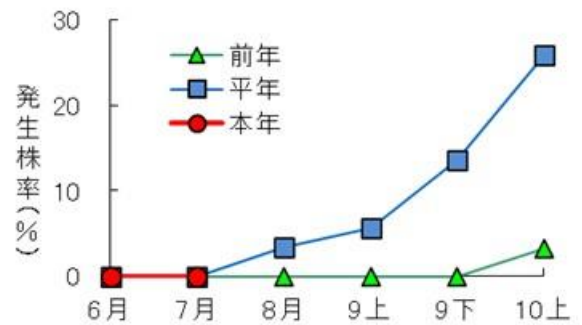


図1 普通期水稻でのトビイロウンカの発生推移

6. コブノメイガ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) これまでの飛来状況

6月15日以降、県内のライトトラップで断続的に誘殺されている(共通-表1)。〈±〉

(2) 発生の現況

① 定期調査(図1参照)

発生株率 0.7% (平年1.6%、前年2.8%)

平年比：並〈±〉

(3) 8月の気象予報

気温は高く、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 止葉を含む上位3葉への被害を防止するため、発生予測図(共通-図2)を参考にして、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで幼虫ふ化揃い期(発蛾最盛期の7日後)に防除を実施する。

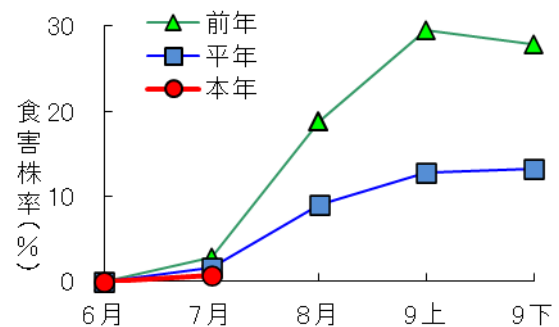


図1 普通期水稻でのコブノメイガの発生推移

7. フタオビコヤガ(イネアオムシ)

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査

発生株率 0% (平年0.01%、前年0%)

平年比：並(±)

(2)8月の気象予報

気温は高く、多発生の条件(+))

3) 防除上注意すべき事項

8月中～下旬頃に圃場における発生状況を確認し、上位葉に多数の幼虫が認められる場合には防除を実施する。

8. 斑点米カメムシ類

水稻(早植え)の斑点米カメムシ類の項参照。

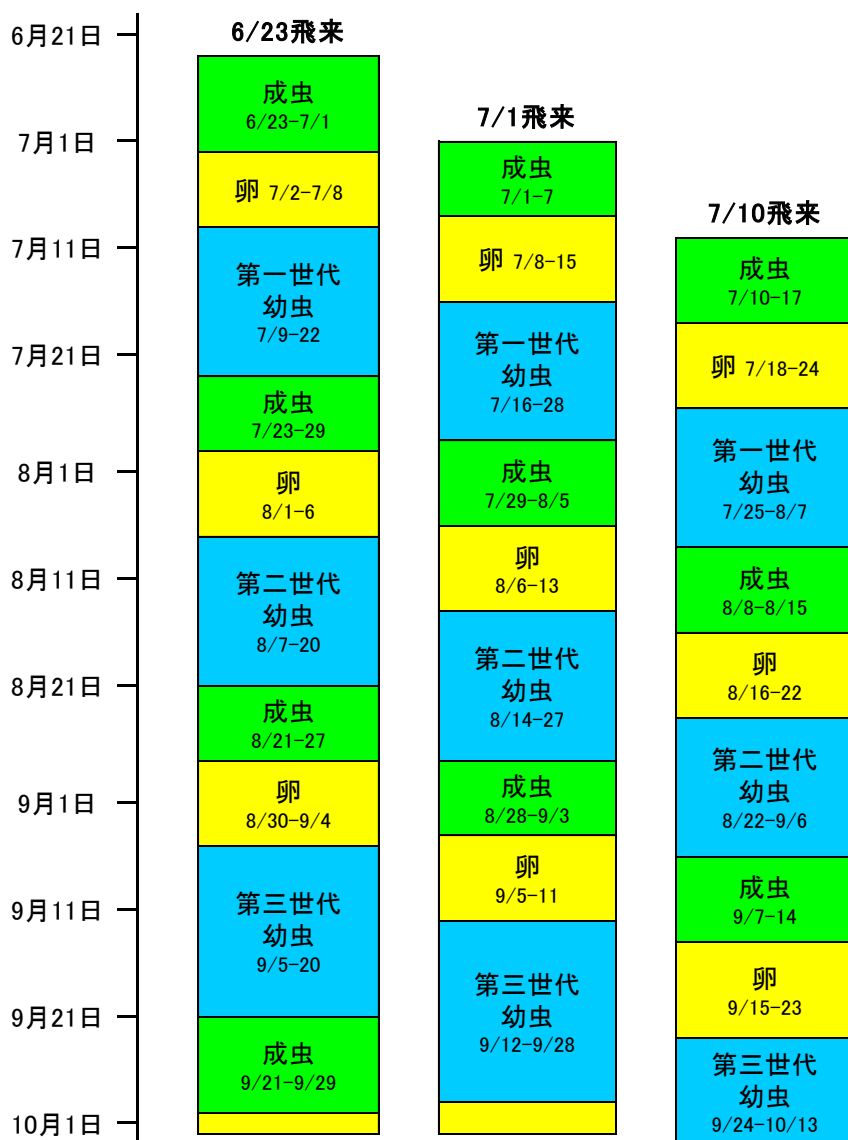
共通一表1 イネウシカ類・コブノメイガのトラップ捕獲状況(2024年)

月	日	トビイロウンカ					セジロウンカ					コブノメイガ								
		佐賀県		長崎県			佐賀県		長崎県			佐賀県			長崎県					
		佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	諫早市	佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	諫早市	佐賀市	佐賀市	神埼市	伊万里市	白石町	武雄市	諫早市	諫早市	
ネット	ライト	ライト	ネット	ネット	ネット	ライト	ライト	ライト	ネット	ネット	フェロモン	フェロモン	粘着トラ	粘着トラ	粘着トラ	粘着トラ	フェロモン	フェロモン		
トラップ	トラップ	トラップ	トラップA	トラップB	トラップ	トラップ	トラップ	トラップ	トラップA	トラップB	トラップA	トラップB	ップ(20W	ップ(20W	ップ(20W	ップ(20W	トラップA	トラップB		
6月	1日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5日	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	7日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	8日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	9日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	10日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	11日	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	12日	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	13日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	14日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	欠測	0	2	0	0	0	0
	15日	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	欠測	0	0	0	0	0	0
	16日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	17日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	18日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	19日	0	1	0	0	0	1	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	20日	0	3	0	0	0	0	10	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	21日	0	8	0	0	0	0	25	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0
	22日	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	0	0	欠測	0	0	1	0	0	0
	23日	0	24	0	0	0	25	66	8	1	1	0	0	0	0	0	10	0	0	0
	24日	0	14	0	0	0	13	92	5	0	2	0	0	3	0	0	3	18	0	0
	25日	0	1	0	0	0	0	148	1	0	0	0	0	0	0	0	3	25	3	0
	26日	0	9	0	0	0	0	187	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	0	0
	27日	0	3	0	0	0	2	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	1	0
	28日	0	7	0	0	0	0	30	4	0	0	0	0	5	0	0	1	2	0	0
	29日	0	4	0	0	0	3	31	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	30日	0	13	0	2	0	15	5	0	3	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0
7月	1日	0	229	0	0	0	14	88	0	1	0	0	0	3	0	0	1	2	3	0
	2日	0	41	0	0	0	0	97	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	2	0
	3日	1	欠測	0	0	0	1	欠測	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0
	4日	0	5	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
	5日	0	0	0	0	0	5	9	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
	6日	0	0	0	0	0	0	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0
	7日	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	8日	0	1	0	0	0	2	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	9日	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	欠測	0	2	0	0
	10日	0	2	0	0	0	1	252	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	11日								106	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	12日								33			0	0	0	0	0	0	1	1	0
	13日		3					933	232			0	0	0	0	欠測	13	0	0	0
	14日								70					0	0	0	0	0	0	0
	15日								17					0	0	0	0	1	1	0

注1) ウシカ類: 佐賀市のネットトラップは、農業試験研究センターで調査(回収日で集計)。嬉野ライトトラップ(予察灯)は農業技術防除センターで調査。7月11～15日の嬉野ライトトラップは、装置の不具合により5日間の合算値。

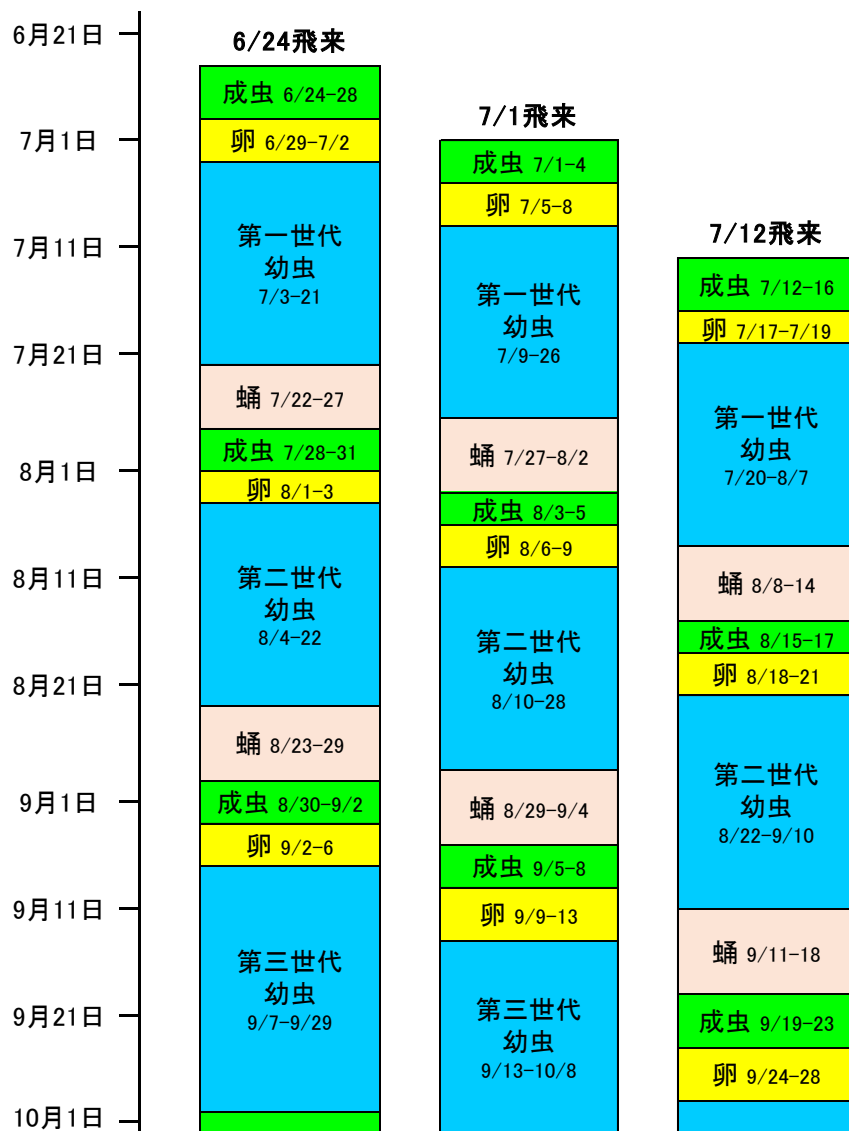
注2) コブノメイガ: 神埼市、白石町、伊万里市、武雄市は防除員が調査。佐賀市のフェロモントラップは農業試験研究センターで調査。

※長崎県のデータは、長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室提供。



共通-図1 トビイロウンカ各世代の発生予測 (第2版、2024年7月19日作成)

1. 6月23~24日頃(図では6月23日)、7月1~2日(図では7月1日)、7月10~11日(図では7月10日)の飛来虫を起点とし、トビイロウンカの有効積算温度及び佐賀市川副町のアメダスデータ(7月19日以降は平年値)に基づき作成した。
2. 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
3. 今後の気象経過等に応じて、本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。



共通-図2 コブノメイガ各世代の発生予測（第2版、2024年7月19日作成）

1. 6月24～27日頃（図では6月24日）、7月1～3日頃（図では7月1日）、7月12～15日頃（図では7月12日）の飛来虫を起点とし、コブノメイガの有効積算温度及び佐賀市川副町のアメダスデータ（7月19日以降は平年値）に基づき作成した。
2. 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
3. 今後の気象経過等に応じて、**本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。**

イチゴ（育苗圃）

[【概要に戻る】](#)

定期調査：9圃場
調査日：7月16～18日



定期調査圃場の様子

1. うどんこ病

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや少ない
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①定期調査（図1参照）
発生株率：0%（平年8.8%、前年0%）
平年比：やや少（-～±）
 - ②8月の気象予報
気温は高く、降水量は並で、並発生の条件（±）
 - (2) 8月の気象予報
気温は高く、降水量は並で、並発生の条件（±）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 定期的な薬剤防除を実施する。

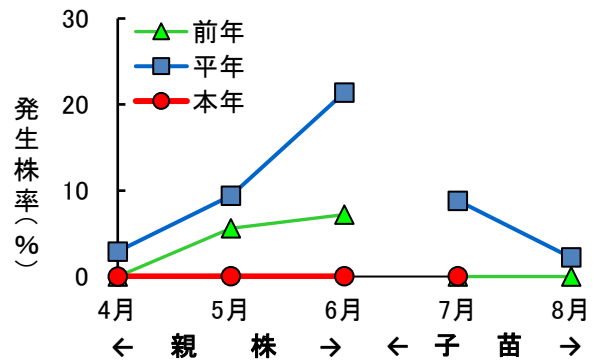


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

2. 苗立枯症（炭疽病・疫病・萎黄病）

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①定期調査（図1参照）
発生株率：0.09%（平年0.02%、前年0.2%）
平年比：やや多（±～+）
 - ②8月の気象予報
気温は高く、降水量は並で、並発生の条件（±）
 - (2) 8月の気象予報
気温は高く、降水量は並で、並発生の条件（±）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 特記事項を参照。

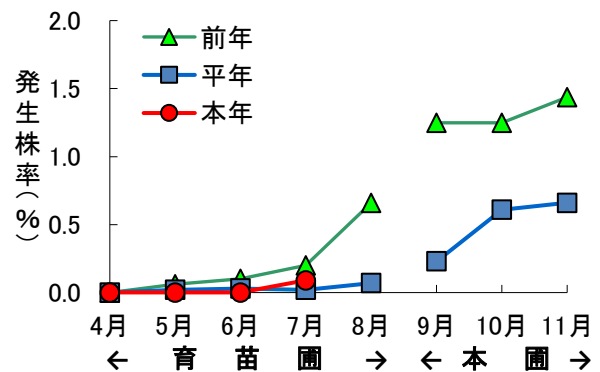


図1 イチゴ立枯症の発生推移

3. ハダニ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年より多い
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①定期調査（図1参照）
発生株率：12.0%（平年7.8%、前年10.4%）
平年比：やや多（±～+）
 - ②8月の気象予報
気温は高く、降水量は並で、多発生の条件（+）
 - (2) 8月の気象予報
気温は高く、降水量は並で、多発生の条件（+）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 特記事項を参照する。

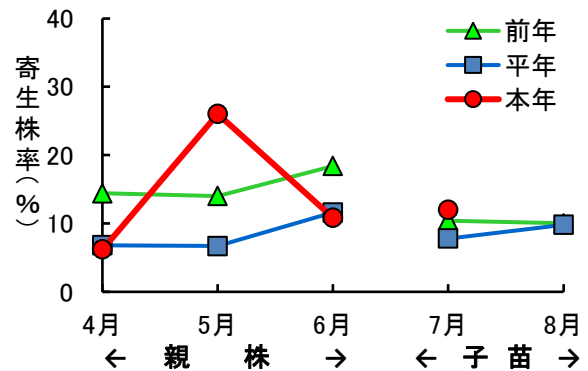


図1 ハダニ類のイチゴ育苗床での発生推移

4. アブラムシ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年より多い
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①定期調査（図1参照）
発生株率：4.0%（平年1.1%、前年1.2%）
平年比：多〈+〉
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 圃場周辺の雑草は本虫の発生源となるため、除草を行う。

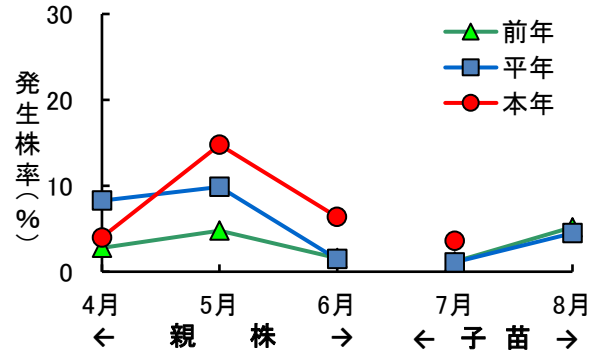


図1 アブラムシ類のイチゴでの発生推移

アスパラガス

[【概要に戻る】](#)

定期調査：8圃場
調査日：7月16日～17日



定期調査圃場の様子

1. 褐斑病

- 1) 予報の内容
発生量：平年並
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①定期調査（図1参照）
発生株率：0%（平年2.4%、前年3.1%）
平年比：やや少〈-〜±〉
 - (2) 8月の気象予報
降水量は並で、並発生の条件〈±〉
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 通風を図るため、降雨時以外は原則として施設開口部を開放する。

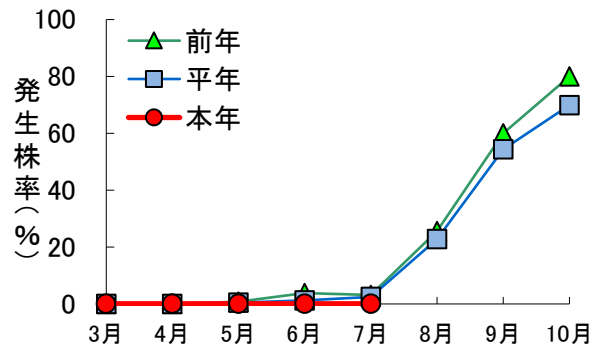


図1 アスパラガス褐斑病の発生推移

2. ハダニ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①定期調査（図1参照）
発生株率：0.6%（平年1.6%、前年0%）
平年比：並〈±〉
 - (2) 8月の気象予報
気温は高く、多発生の条件〈+〉
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 特記事項を参照。

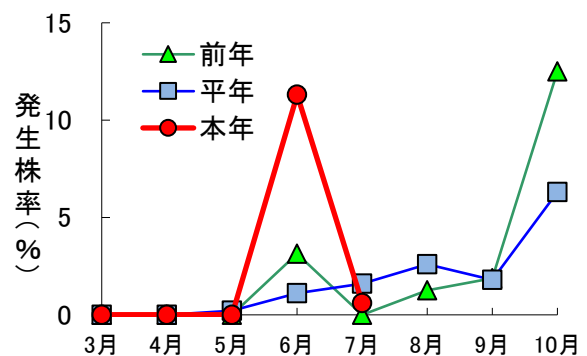


図1 アスパラガスでのハダニ類の発生推移

果樹全般

[【概要に戻る】](#)

1. カメムシ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い

果樹園への飛来予想時期：県平均9月1半旬頃（早い地域は8月5半旬頃）

2) 予報の根拠

(1) 6月1半旬～7月3半旬までの誘殺量

①予察灯（図1参照）

平年比：並（±）

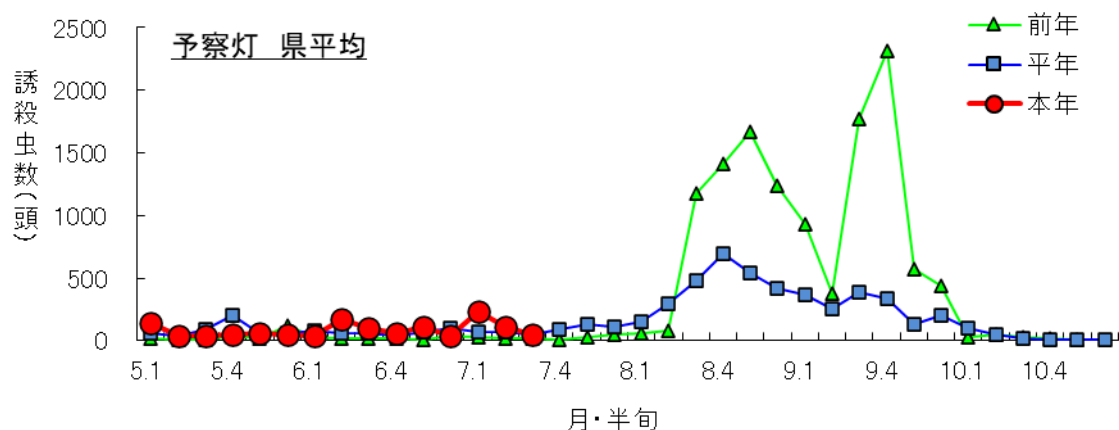


図1 予察灯（佐賀市、小城市）による果樹カメムシ類の平均誘殺数の推移

②フェロモントラップ（図2参照）

平年比：多（+）

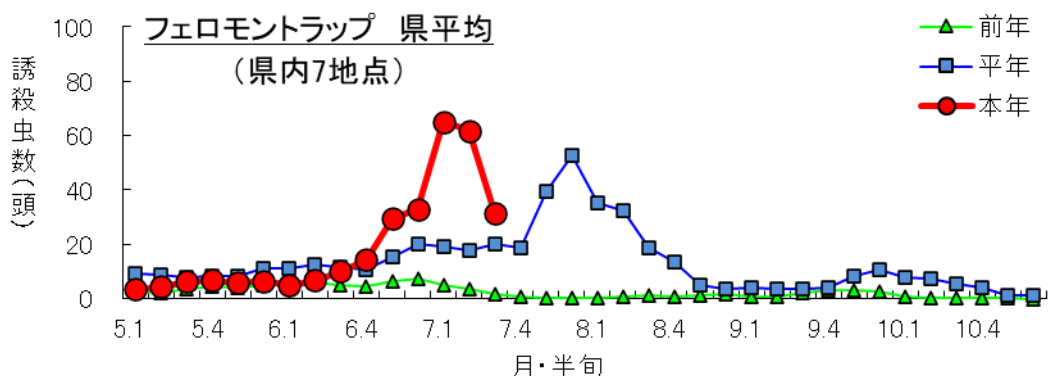


図2 フェロモントラップ（小城市、鹿島市、伊万里市、唐津市浜玉町、唐津市鎮西町、基山町、太良町）による果樹カメムシ類の平均誘殺数の推移

(2) ヒノキ毬果における寄生数（図3、表1参照、7月16～18日調査）

成幼虫数平均：18.5頭（平年11.1頭、前年7.1頭）

平年比：やや多（±～+） 前年比：多（+）

(3) ヒノキ毬果における口針鞘数（図4、表1参照、7月16～18日調査）

口針鞘数平均：1.4本/果（平年1.9本、前年0.2本）

平年比：並（±） 前年比：やや多（±～+）

(4) 8月の気象予報

気温が高く、多発生の条件（+）

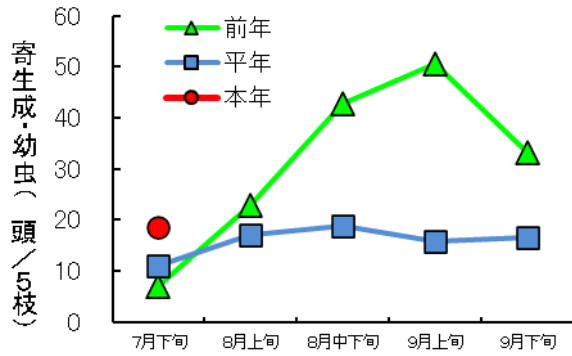


図3 ヒノキ毬果における果樹カメムシ類寄生数の推移

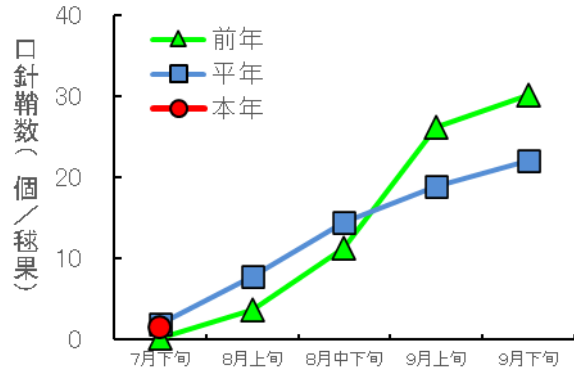


図4 果樹カメムシ類によるヒノキ毬果の口針鞘数の推移

表1 ヒノキ毬果における果樹カメムシ類寄生虫数及び口針鞘数 (図3、4に関する地点別の状況) (調査日: 7月16~18日)

No.	調査地	ヒノキ毬果における寄生状況 ¹⁾			口針鞘数 ²⁾ 7月下旬	離脱予測時期 ³⁾ (各調査日から算出)	ヒノキ毬果 ⁴⁾ 着果程度
		成虫	幼虫	合計			
1	上峰町	-	-	-	-	-	少
2	神埼市	-	-	-	-	-	極少
3	小城市	2	0	2	0.2	9月2半旬頃~	中
4	唐津市1	20	8	28	0.5	9月2半旬頃~	少
5	唐津市2	21	2	23	0.2	9月2半旬頃~	少
6	唐津市3	50	15	65	0.7	9月1半旬頃~	極少
7	伊万里市1	3	14	17	1.6	9月1半旬頃~	やや少
8	伊万里市2	6	9	15	1.7	9月1半旬頃~	少
9	伊万里市3	5	0	5	0.1	9月2半旬頃~	極少
10	多久市	2	0	2	0.3	9月2半旬頃~	やや少
11	鹿島市1	19	3	22	5.4	8月5半旬頃~	中
12	鹿島市2	9	9	18	3.9	8月6半旬頃~	極少
13	太良町1	9	11	20	1.0	9月2半旬頃~	やや多
14	太良町2	1	4	5	1.9	9月1半旬頃~	やや少
	平均	12.3	6.3	18.5	1.4	9月1半旬頃~ ⁵⁾	少
	平年	-	-	11.1	1.9		
	前年(R5年)	-	-	7.1	0.2		やや少

1) たたき落としによる調査

2) 口針鞘数が1果当たり25本を超えるとヒノキ毬果が餌として不適となりカメムシがヒノキ毬果より離脱する傾向

3) 各調査日における口針鞘数~離脱予想時期(25本/果に達する時期)の平均値より算出

4) ヒノキ毬果着果程度: 福岡総農試の達観調査法に基づいて調査

- ・極少: 一部の木では丈夫にも毬果が見られるが、多くの木では上部にも毬果がない。
- ・少: 毬果が全くない木も見られるが、多くの木の上部には毬果がある
- ・やや少: 毬果が全くない木も見られるが、多くの木の上部には毬果があり、一部の木では中央部にもみられる
- ・中: 中央部まで毬果が見られる木が多い
- ・やや多: 多くの木では中央部までたくさんの毬果が見られ、一部は下部にも毬果がある
- ・多: 下部まで毬果が見られる木が多い
- ・極多: ほとんどの木で下部までたくさんの毬果が見られる

5) 離脱予想時期の県平均は、各調査日及び口針鞘数の平均値により算出

※ヒノキ毬果における寄生虫数、口針鞘数は地形等により差が大きいため、各調査地点の結果が必ずしも当該地域全体の状況を示すものではない。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

カンキツ

[【概要に戻る】](#)

定期調査 8 圃場

調査日：7 月 16～18 日



定期調査圃場の様子

1. かいよう病

1) 予報の内容

発生量：平年より多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図 1、2 参照)

発生葉率：0.5% (平年 0.0%、前年 0%)

平年比：多 (+)

発生果率：0.01% (平年 0.0%、前年 0%)

平年比：多 (+)

(2) 8 月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 前年に発生した園や風当たりが強い園、罹病性品種 (ネーブル、はるみ等) の植栽園、新梢の伸長が遅くまで続く園 (幼木園、高接園、隔年交互結実栽培園等) では、無機銅水和剤 (クレフノン 200 倍加用) で定期的に防除を行う。散布間隔の目安は 20～25 日とする。
- (2) 無機銅水和剤にマンゼブ水和剤を混用すると無機銅水和剤の防除効果が低下するので控える。
- (3) 発病した枝や葉は伝染源となるため除去し、処分する。ただし、枝が遅くまで伸長し本病にかかりやすい期間が長くなるため、強剪定は行わない。
- (4) その他については、特記事項を参照する。

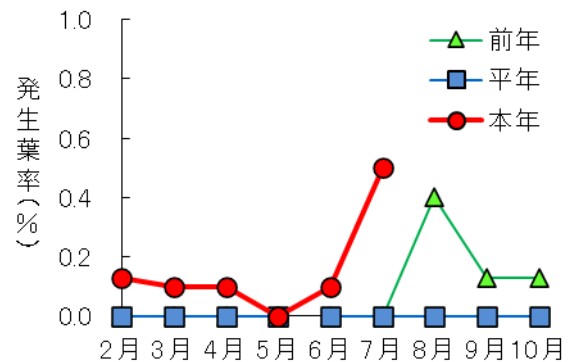


図 1 カンキツかいよう病の発生推移

注) 5 月下旬までは旧葉を調査

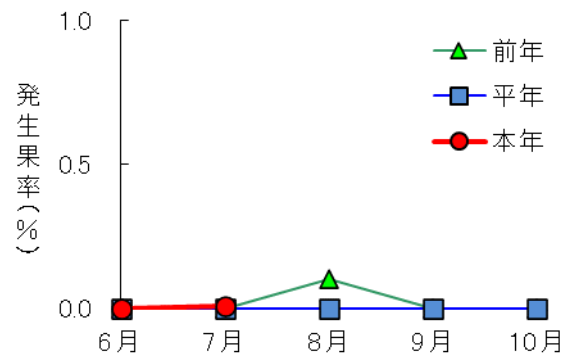


図 2 カンキツかいよう病(果実)の発生推移

2. 黒点病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図 1 参照)

発生果率：10.3% (平年 4.8%、前年 1.5%)

平年比：やや多 (±～+)

(2) 8 月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件 (±)

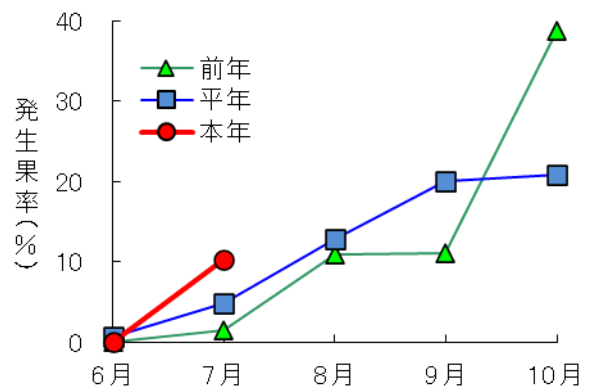


図 1 カンキツ黒点病の発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1) マンゼブ水和剤散布後の次回散布時期は、積算降雨量が200~250mm（マシン油乳剤を6月に加用した場合は300~400mm）に達した時点を目安とする。ただし、同雨量に達しない場合でも、散布後1ヶ月を目途に次の散布を行う。
- (2) 枯れ枝や剪定枝は伝染源となるため除去し処分する。園内に残った切り株は伐根するか、ビニルの袋などで全体を覆って病原菌の胞子が飛散するのを防ぐ。

3. ミカンハダニ

1) 予報の内容

発生量：平年より多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生葉率：9.9%（平年2.5%、前年0%）

平年比：多（+）

(2) 8月の気象予報

気温は高く、降水量は並で、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 低密度時（寄生葉率30%未満または1葉当たりの雌成虫数が0.5~1頭未満）からの薬剤防除を徹底する。
- (2) マシン油乳剤を7月以降に使用すると果実腐敗の発生を助長したり、糖度の低下を招いたりするので使用しない。

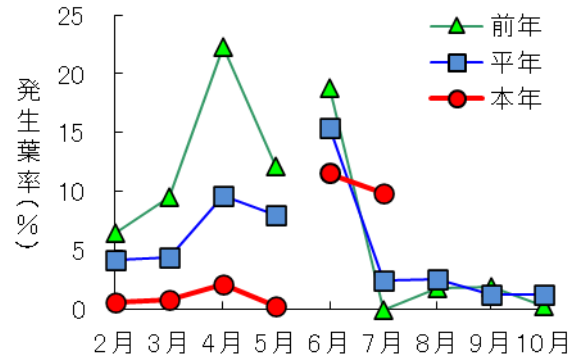


図1 ミカンハダニの発生推移
注)5月下旬までは旧葉を調査

4. チャノキイロアザミウマ

1) 予報の内容

発生量：平年より多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生果率：0.1%（平年0.2%、前年0.8%）

平年比：並（±）

②黄色粘着トラップ（図2参照）

平年比：やや多（±~+）

(2) 8月の気象予報

気温は高く、降水量は並で、多発生の条件（+）

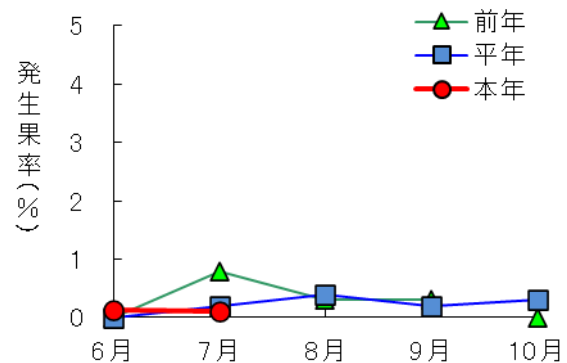


図1 チャノキイロアザミウマによる被害果の発生推移

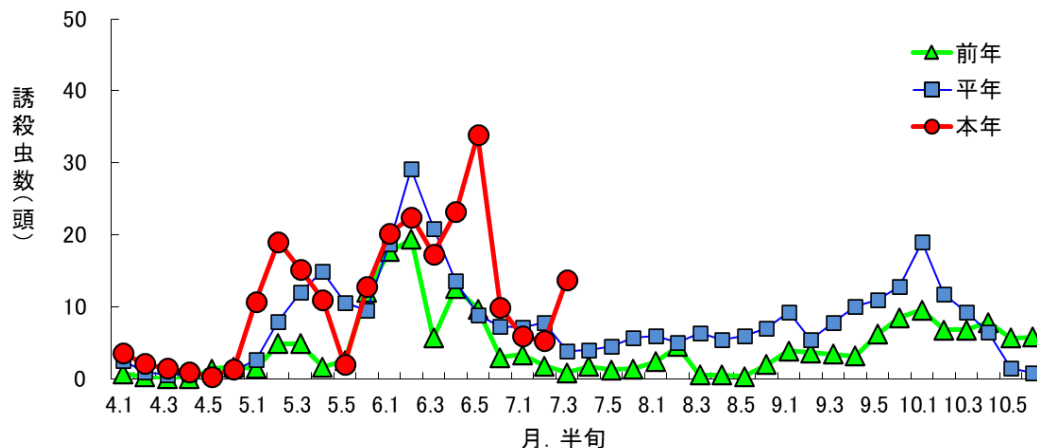


図2 黄色粘着トラップによるチャノキイロアザミウマの誘殺数の推移(小城市 果樹試験場調査)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

ナシ

[【概要に戻る】](#)

定期調査9圃場
調査日：7月17日



定期調査圃場の様子

1. ナシヒメシクイ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① ナシ園地に設置したフェロモントラップ (図1 参照)

平年比：並(±)

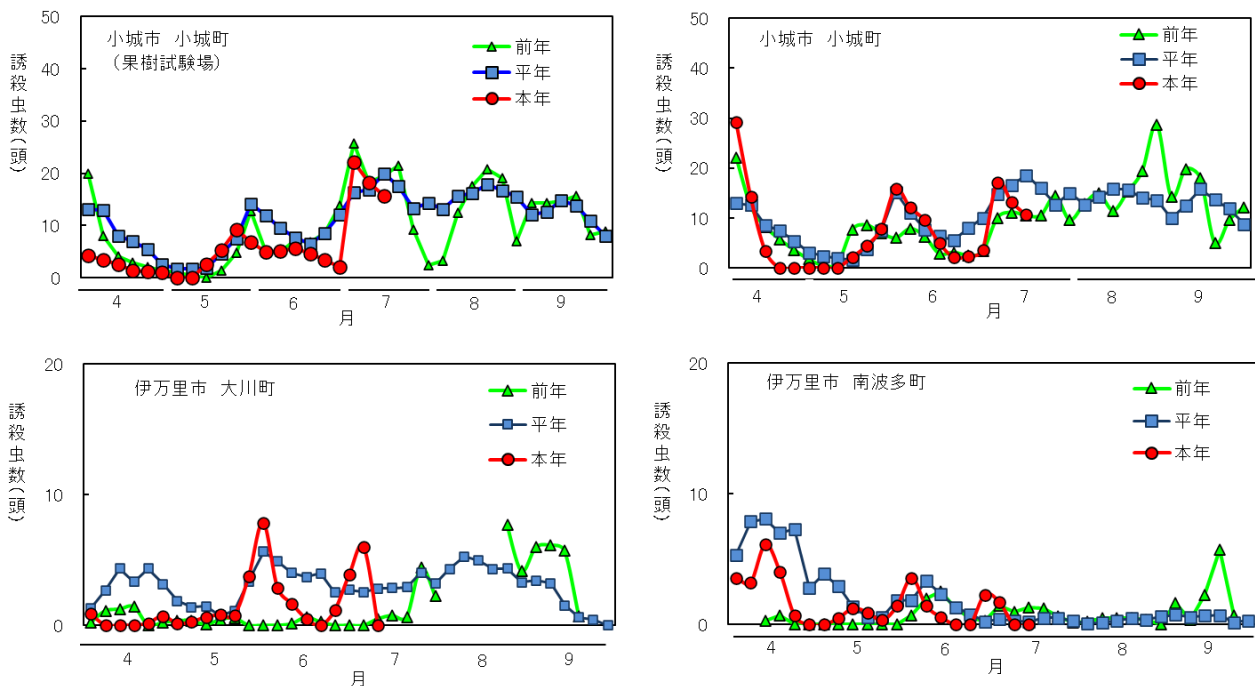


図1 フェロモントラップによるナシヒメシクイの誘殺数の推移
(果樹試験場、西松浦地域振興センター調査)

(2) 8月の気象予報

気温は高く、多発生の条件(+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 7月以降は世代が混在するため、7~10日間隔で薬剤散布を行う。

(2) 交信攪乱フェロモン剤設置園においても、10~14日間隔で薬剤防除を行う。

2. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生葉率：25.4%（平年2.8%、前年1.2%）

平年比：多〈+〉

(2) 8月の気象予報

気温は高く、降水量は並で、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

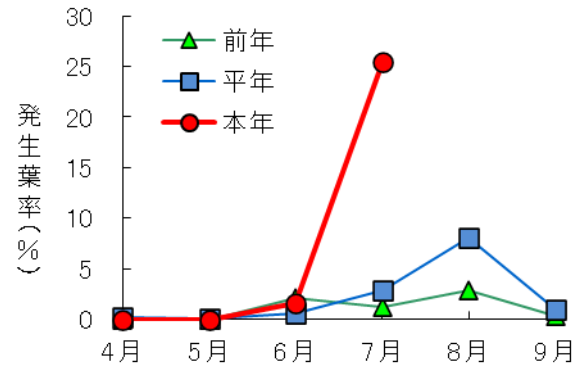


図1 ハダニ類のナシでの発生推移

ブドウ

[【概要に戻る】](#)

定期調査 6 圃場

調査日：7月16～18日



定期調査圃場の様子

1. ベと病

1) 予報の内容

発生量：平年より多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生葉率：14.0%（平年2.5%、前年5.2%）

平年比：多〈+〉

(2) 8月の気象予報

気温は高く、降水量は並で、並発生の条件〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

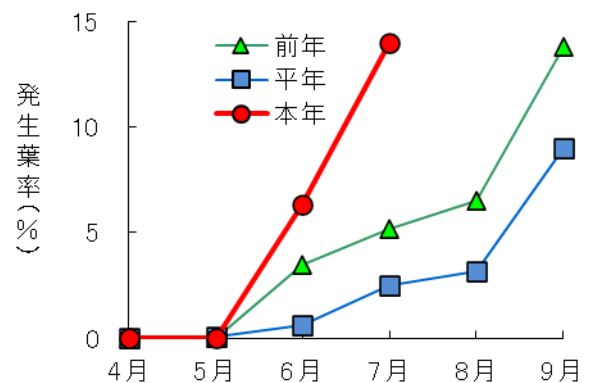


図1 ブドウべと病の発生推移

茶

[【概要に戻る】](#)

定期調査：7 圃場
調査日：7 月 16 日～18 日



1. 炭疽病

定期調査圃場の様子

- 1) 予報の内容
発生量：平年より多い
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査 (図 1 参照)
発生葉数：48.6 枚/m² (平年 5.6 枚、前年 16.0 枚)
平年比：多 <+>
 - ② 8 月の気象予報
降水量は並で、並発生の条件 <±>
 - (2) 8 月の気象予報
降水量は並で、並発生の条件 <±>
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 特記事項を参照。

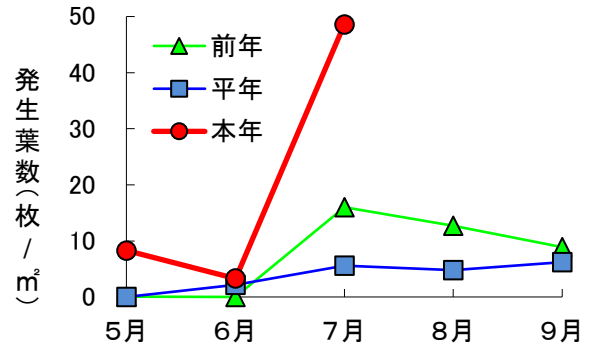


図1 炭疽病の発生葉数の推移

2. カンザワハダニ

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査 (図 1 参照)
発生葉率：0.6% (平年 1.1%、前年 1.4%)
平年比：並 <±>
 - ② 8 月の気象予報
気温は高く、降水量は並で、多発生の条件 <+>
 - (2) 8 月の気象予報
気温は高く、降水量は並で、多発生の条件 <+>
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 幼虫は葉裏に生息することが多いため、葉裏へ薬剤が十分にかかるように丁寧に散布する。
 - (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

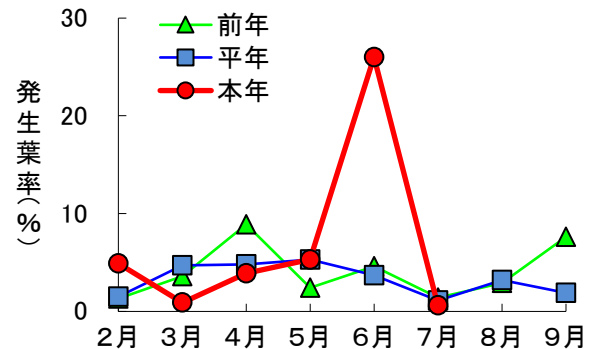


図1 カンザワハダニの茶での発生推移

3. チャノキイロアザミウマ

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや少ない
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査 (図 1 参照)
虫数：1.4 頭/4ヶ所 (平年 18.6 頭、前年 19.4 頭)
平年比：少 <->
 - ② 吸引粘着トラップ (図 2 参照)
平年比：やや少 <-~±>

(2) 8月の気象予報

気温は高く、降水量は並で、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫は葉裏に生息することが多いため、葉裏へ薬剤が十分にかかるように丁寧に散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

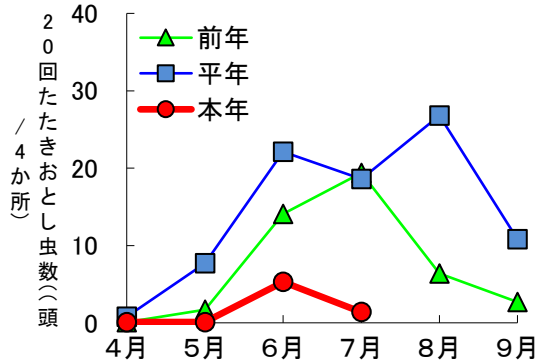


図1 チャノキイロアザミウマの茶での発生推移

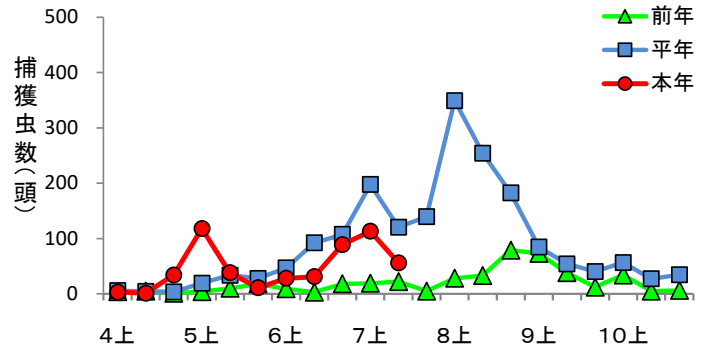


図2 吸引粘着トラップによるチャノキイロアザミウマの旬別捕獲虫数の推移(嬉野市嬉野町、茶業試験場調査)

4. チャノミドリヒメヨコバイ

1) 予報の内容

発生量：平年より多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

虫数：7.1頭/4ヶ所 (平年2.6頭、前年3.9頭)
平年比：多〈+〉

(2) 8月の気象予報

気温が高く、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 特記事項を参照。

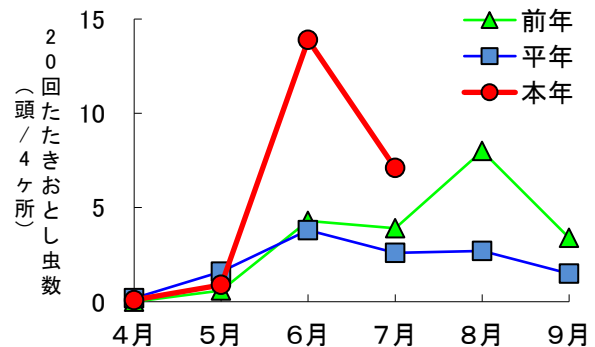


図1 チャノミドリヒメヨコバイの茶での発生推移

5. チャノコカクモンハマキ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

被害葉数：15.6枚/m² (平年4.4枚、前年24.1枚)
平年比：多〈+〉

② フェロモントラップ (図2、3参照)

平年比：やや多〈±~+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 特記事項を参照。

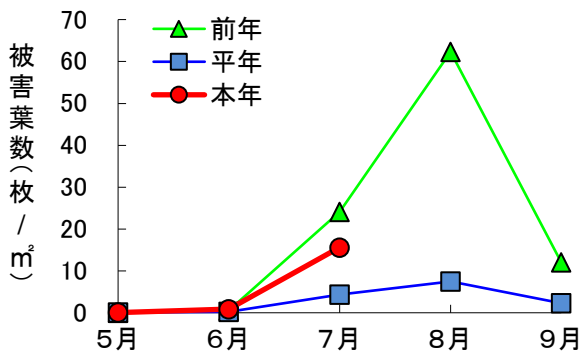


図1 チャノコカクモンハマキの被害葉数の推移

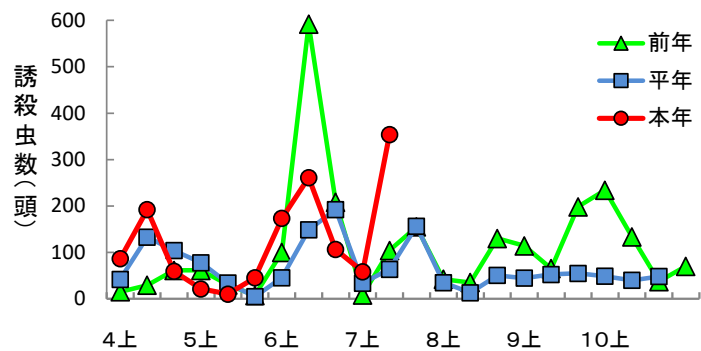


図2 フェロモントラップによるチャノコカクモンハマキの旬別誘殺数の推移(嬉野市嬉野町、茶業試験場調査)

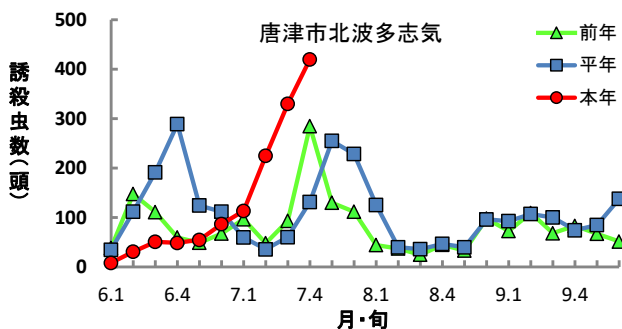
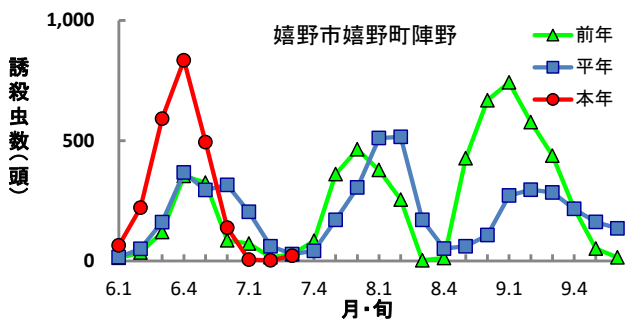


図3 フェロモントラップによるチャノコカクモンハマキの半月別誘殺数推移(唐津市・嬉野市、防除員調査)



連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部

〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088

TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085

Mail nougyougi_jutsu@pref.saga.lg.jp

ホームページアドレス https://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji00321899/index.html

